

4『風かおる“みち”』の実現・持続に向けて

今後、天王寺大和川線整備の進捗を図るうえで（『風かおる“みち”』の実現・持続に向けて）、検討会議で提起された留意すべき懸案事項について、以下のとおり整理する。

4.1 天王寺大和川線事業の推進に関する事柄

4.1.1 基本計画検討案の実現に向けて

基本計画検討案を具体化・実現化していくために実施、解決すべき点について、行政での取り組みが必要な事柄と地域での取り組みが必要な事柄とに整理する。

【行政での取り組みが必要な事柄：各種手続き、事業推進方策について】

- 基本計画検討案の内容と、現在の都市計画決定における内容とを照らし合わせ、実現に際し必要となる各種手続きの実施。
- 基本計画検討案で想定している将来の利活用の形態を踏まえたうえでの、天王寺大和川線におけるそれぞれの空間の法的な位置付けの整理、及び、都市公園等道路以外の都市施設として位置づけることがふさわしいと判断する場合は、重複した都市計画決定の手続きの実施等について検討。
- 基本計画検討案を具体化していくために必要となる、交通管理者を始めとした関係先との協議の実施。
- 交通規制の変更等を予定している区間については、地域と調整のうえ、交通管理者との協議の実施。
- 優先的な財源確保に向けて、関係先との調整の実施。
- 円滑、効率的な事業実施手法等の検討。
- 天王寺大和川線の整備効果を効率的に発揮できるよう、適切な工区割り及び各工区の優先順位付けの検討。
- 天王寺大和川線事業に関する情報の積極的な発信。

【地域での取り組みが必要な事柄：事業への関わりの持続について】

- 地域が主体となった地域協働の組織づくり

基本計画検討案の実現に向けては、地域全体で事業の進捗を見守ること、事業への関わりを持続していくことが重要であり、具体的な方策としては、様々な地域活動の実施が有効である。そこで、この地域活動を実施する際の核となり、みち・みどり会議の発展形に位置づけられるような、協働推進の組織を、地域が主体となって、立ち上げることが必要である。

この地域主体の地域協働の組織には、地域において、本基本計画検討案をはじめとした天王寺大和川線事業に関する情報の共有化や関心の持続を図り、天王寺大和川線整備後における、天王寺大和川線を核としたまちづくり、地域コミュニティ形成にむけて布石を打つという役割を担うことを期待するものである。

- 地域協働の組織運営方法等の検討

地域協働を推進するには、地域の様々な団体や企業、学校園等との連携による、幅広い人材の確保が不可欠であり、地域協働の核となるこの組織においては、行政や各団体との連携方策等について検討を進めることが必要である。

併せて、組織運営の基本となる、自主財源確保について、スポンサー確保やビジネスモデルづくり、行政等の助成制度活用等について、情報収集及び学習・検討を進めることが必要である。

- 地域活動の実施

- ・ イベント等開催による整備イメージ「基本計画検討案」の紹介。
- ・ 地域協働の機運向上、地域主体の組織への参加の輪を広げるための、地域の企業や学校等へのPR。
- ・ 将来の利活用の形態を踏まえた予定地の暫定利用や社会実験、イベント等の実施。
- ・ 行政が実施する地元調整等における協働。（説明会等の共同開催、事前調整 等）

4.1.2『風かおる“みち”』の持続に向けて(地域協働の取り組みについて)

『風かおる“みち”』の姿を長く後世に引き継ぐためには、適切な維持管理が不可欠であり、行政組織での対応だけでは、きめ細やかな維持管理は困難な状況である。基本計画検討案とりまとめの際にみち・みどり会議で培った地域協働の取り組みをさらに発展させ、行政と地域が協働した維持管理運営組織の確立が必要である。

そこで、『風かおる“みち”』の持続に向けた地域協働の取り組みを進めていくために実施、解決すべき点について、行政での取り組みが必要な事柄と地域での取り組みが必要な事柄とに整理する。

【行政での取り組みが必要な事柄：地域協働推進に向けた体制づくり、推進の方策について】

- 天王寺大和川線事業の各段階（設計時、施工時、完成後維持管理の実施 等）における地域協働の在り方、行政と沿線地域、地域主体の組織（天王寺大和川線事業での地域協働に関わる組織 等）との関わり方についての整理。
- 地域対応の窓口や支援の体制について、行政内部での役割分担等の整理。
- 地域協働での維持管理組織づくり及び組織運営に関する事柄についての情報収集、地域での検討実施の支援。
 - ・ 活動資金確保等についての検討に必要となる資料、情報の提供。
 - ・ 地域主体の組織による維持管理推進のために行政が実施すべき方策（地域組織への業務のアウトソーシング実施等）の検討。
- 地域主体の組織での地域活動に対する支援。
 - ・ 地域活動の場の提供。（イベントや社会実験 等）
 - ・ 将来の利活用を踏まえた予定地の暫定利用の対応。（苗木を育てる等の活動 等）
 - ・ 学習機会の提供及び専門家派遣などの支援。
 - ・ 活動時の地域の企業や学校等との連携に向けたコーディネート 等
- 事業進捗等について、地域等への積極的な情報発信。
- 行政が担うべき維持管理の適切な実施に向けた財源確保。

【地域での取り組みが必要な事柄】

- 地域協働等の活動内容に対応した組織の改編

『風かおる“みち”』を持続するには、地域全体として天王寺大和川線を見守り、育てることが効果的であり、地域の様々な団体が連携して活動できる仕組みをつくることが不可欠である。

これには、基本計画検討案の実現に向けての段階で立ち上げた地域主体の地域協働の組織が、維持管理等、具体の地域活動実施時に行政及び関係者等との調整役を担えるように、必要に応じて組織改編を行うことが必要である。

- 地域活動時における人材確保

円滑に地域活動を進めていくためには、活動内容に応じた段階的で多様な人材の確保

が必要であり、既存の地域団体、地域の企業、学校園等との連携を強め、人材確保及び人材育成を進めることが必要である。

- 組織運営における財源確保

地域主体の組織が持続するためには、組織として自立していること、自主財源を確保することが必要である。そのため、スポンサー確保に向けたPR活動やビジネスモデルの提案、また、自前でのビジネスモデルづくりや行政等の助成制度活用に向けての取り組みが必要である。

- 地域活動実施に向けての課題検討

- ・ 具体的な地域活動の企画、調整。
- ・ 地域協働での維持管理の内容、地域分担の区分等の整理。
- ・ 天王寺大和川線整備後（利活用時）の適正な利活用の在り方の検討や地域でのルールづくり。等

- 地域活動の実施

- ・ 地域活動への参加の輪を広げるための、地域の企業や学校等へのPR活動。
- ・ 人材育成（次世代への継承）に向けた活動。
- ・ 樹木管理、エリアマネジメント、コミュニティビジネス等の始動に向けた各種活動。等

4.2 具体的な施設整備に関する事柄

基本計画検討案に示しているそれぞれの施設について、具体的に整備を進めていくために、行政が実施、解決すべき事柄を以下に整理する。

4.2.1 車道について

- 地域案において車道を計画していない区間における、車道の必要性の検討及び整備内容の決定。
 - ・ 沿道の権利者、関係者等に対する説明。なお、説明に際しては、「整備の基本方針『風かおる“みち”』の趣旨」、「これまでの検討経過」を踏まえ、車道有無それぞれの考え方、沿道に及ぼす影響等の提示が必要。
 - ・ 沿道の権利者、関係者等の意見集約の結果、周辺地域の道路状況等を踏まえた、交通管理者等と協議・調整。
- 大規模災害時において、天王寺大和川線が担うべき道路としての役割の整理。（緊急車両の通し方、幹線道路との交差点部の中央分離帯の処理 等）
- 環境を考慮した舗装材料選定等の検討と実施。（排水性舗装、保水性舗装 等）
- 天王寺大和川線と細街路との交差点部について、天王寺大和川線としての連続性確保及び交通安全対策等の視点を考慮した整備の検討。（イメージハンプ、狭さく 等）

4.2.2 自転車の通行空間について

- 天王寺大和川線においてみどりの空間の端部に整備する自転車の通行空間の法的位置付けや管理区分等の整理。
- 交通管理者との協議の実施。
 - ・ 平成24年11月に国土交通省と警察庁においてまとめられた「安全で快適な自転車利用環境創出ガイドライン」の内容を勘案しながら、本基本計画検討案の実現に向けた、交通管理者との協議の実施。

- 駅前空間における、自転車と歩行者の交錯を減らす駐輪場配置の検討、及び適切な誘導の実施。
- 交差点部における、自転車の通行空間の整備手法等の検討。
- 天王寺大和川線における自転車利用の考え方を踏まえた、自転車通行空間の利用を進めるため、ハード・ソフト両面にわたる対策の検討と実施。^{*2}

*2 天王寺大和川線は、整備後の自動車交通量を現状程度と想定しており、現状の自動車交通量が少ないことから、日常の交通手段（主に通勤や通学など）としての自転車利用や高速走行の自転車については、車道を走行することとして、本基本計画検討案をまとめてきた。このため、みどりの空間の端部に整備する自転車の通行空間については、みどりを楽しみながらゆっくり走行する自転車利用を想定している。

4.2.3 歩道について

- 環境や景観等を考慮した舗装材料選定等の検討と実施。（透水性舗装、保水性舗装、カラー舗装 等）
- 天王寺大和川線と細街路との交差点部について、歩行者優先の視点での交通安全対策の検討と実施。（スムーズ歩道、歩道舗装と同系色で車道横断部の着色の実施 等）
- 横断防止柵設置の場合、利活用の形態等を考慮したデザイン等の検討。

4.2.4 みどりの空間について

～広場～

- イベントやボール遊びが可能な空間整備については、周辺の地域状況等（交通量、利活用の需要の把握 等）を考慮した検討、地域主体の組織等と連携した沿道住民等への事前調整の実施。
- 現在、天王寺大和川線予定地内に立地している、「種から育てる地域の花づくり事業（地域協働での取り組み）」の拠点施設については、事業及び施設の継続を考慮した、本整備の検討。
 - ・ 関係先（区役所、活動団体、地域主体の組織 等）と調整の実施。
 - ・ 適切な空間配置についての検討。 等
- 広場空間における「にぎわい」や「イベント」の創出については、人々の滞留形態、利活用の方法等を具体的に検討し、広場空間の設計への反映。
- 広場空間の利活用を踏まえた法的な位置付け、利活用に係る規制等の在り方の検討。
- 流動的な利活用に対応が出来るような整備内容の検討。（当初の整備の形態をハーフメイド的な水準にとどめる 等）
- 地域協働での維持管理の実施をサポートする施設（トイレ、散水栓、用具庫、手洗い場 等）の整備についての検討。
- 樹木の水やり等の水については、地下水や雨水の利用、及びこれに係る施設整備についての検討。
- 樹種の選定や配置、遊歩道等の作り方、照明機器選定（効果的な低位置灯）等については、見通し確保等、防犯の視点での検討。

～植栽～

- 樹木選定及び配植計画においては、成長と管理、生物多様性、土壌環境等を考慮した検討。特に、成長と管理においては、枝張だけでなく、根の特徴を考慮した検討。
- 配植に際しての近隣住民との合意形成。
- シンボル樹や添景木の樹種選定については、地域協働の取り組みの中（地域主体の組織との連携等）での検討の実施。

- 地域全体における、緑の育成に対する機運向上、緑への愛着の醸成を目指して、今後地域主体の組織が進める様々な地域活動（地域で育てる苗木づくり 等）との連携及びその活動支援についての検討の実施。

～その他～

- せせらぎなど水景施設の整備に関しては、整備費だけでなく、維持管理経費等を踏まえた検討。
 - ・ 地域の使い方に併せた、整備内容〔規模（幅、長さ等）・水源（雨水貯留、井戸等）〕の設定。
 - ・ 整備後の適切な維持管理体制確保に向けて、日常及び定期的な維持管理における、行政と地域の連携の在り方等の整理。（地域主体の組織との連携の在り方 等）
- 水景施設等の整備においては、本整備実施時期に、地域での維持管理体制等が整理されていない場合は、将来における体制整備の可能性について、地域主体の組織と十分調整を図り、施設整備の空間確保等について考慮しておくことが必要。
- 防災トイレや防災倉庫、防災に配慮した各種ストリートファニチャーの採用等、災害時に対応できる施設整備についての検討。
- みどりの空間の連続性を考慮した高架下開発の促進について、JR への要請の継続実施。（特に我孫子町駅から南の区間）

4.3 事業進捗及び地域状況の変化に応じた整備内容の再調整と整備効果の検証について

4.3.1 事業進捗及び地域状況の変化に応じた整備内容の再調整について

今後、事業進捗を図るなかで、地域状況等の変化も想定され、これまでに示された事柄以外の問題発生が想定される。これに対応するために、先行整備した箇所における整備効果、整備前後の地域状況の変化等を確認し、それ以後の整備に反映していくことが必要である。

また、必要に応じて社会実験の実施を行う等、整備内容を固定することなく、より良い『風かおる“みち”』の実現・持続を目指し、事業を進めていくことが重要である。

併せて、地域においては、地域主体の組織が核となり、様々な地域組織と連携して、整備後における地域活動の実施に向けて、整備前の段階から、活動内容等の検討を進めるとともに、天王寺大和川線予定地内において試験的に地域活動を実施する等、試行錯誤を重ねることが重要である。

4.3.2 整備効果の検証について

天王寺大和川線は「JR 阪和線の各駅へアクセス機能、交通結節点機能」「沿道公園との連携によるアメニティ空間機能」「防災空間機能」といった多様な役割を担う道路であり、事業化までの経過等を鑑み、整備前の段階から地域協働に取り組ながら事業を進めている。このため、従来の道路整備効果のみならず、地域コミュニティの活性化や地域福祉の向上等、多岐にわたる整備効果が期待でき、整備後の効果検証に向けて、効果指標設定等の検討、事前調査等の準備を進める必要がある。

なお、天王寺大和川線事業で想定される整備効果測定の主な項目は下のとおり。

- ・ 地域の活性化の視点：広場等の利活用の頻度、JR 阪和線の乗降客数の変化、地域コミュニティ意識の変化、高齢者の外出機会増加、世代間交流の活性化 等
- ・ 交通環境の視点：車・自転車・歩行者の交通量の変化、駅周辺における放置自転車等の台数変化 等

- ・都市環境の視点 : ヒートアイランド現象の緩和、風向きや風力の変化、緑比率の増加、生物多様性の保全・回復、大気汚染濃度の変化 等

また、これら効果検証については、天王寺大和川線事業だけでなく、今後の大阪市における様々な事業実施においても反映することができるよう整理が必要である。

更に、一定の区間ごとに整備効果について整理と検証を行い、全体としての天王寺大和川線整備に活かすことが重要であり、これにより『風かおる“みち”』の実現・持続を可能にするものである。

5 参考資料

■天王寺大和川線整備計画検討会議委員

委員長	日野 泰雄	大阪市立大学大学院	教授
委員	増田 昇	大阪府立大学大学院	教授
委員	鍋島 美奈子	大阪市立大学大学院	講師
委員	正木 啓子	大阪ガス近畿圏部顧問	前大阪府道路公社理事長
委員	弘本 由香里	大阪ガス株式会社	エネルギー・文化研究所 特任研究員

■みち・みどり会議メンバー

みち・みどり会議は、地域の代表者、進行役（ファシリテーター）、事務局（行政の関係部署）により構成し、地域の代表として、次に掲げる各団体の代表者の方々にご出席いただいた。（※みち・みどり会議は、「美章園地域」「南田辺・鶴ヶ丘地域」「長居・我孫子町地域」の3地域に分かれて開催した。）

美章園地域	南田辺・鶴ヶ丘地域	長居・我孫子町地域
常盤連合町会	長池連合町会	長居連合町会
高松連合 第13町会	田辺連合町会	依羅連合町会
文の里連合町会	南田辺連合町会	南住吉連合町会
北田辺連合町会	南田辺駅前商店会	山之内連合町会
美章園駅周辺商店街代表	鶴ヶ丘商店会	荻田連合町会
阿倍野区地域女性団体協議会	鶴ヶ丘本通商店街振興組合	荻田北連合町会
阿倍野区老人クラブ連合会	阿倍野区地域女性団体協議会	長居駅周辺商業関係団体
阿倍野区身体障害者団体協議会	阿倍野区老人クラブ連合会	我孫子町商店会
※3行政区連絡会 美章園グループ	阿倍野区身体障害者団体協議会	住吉区地域女性団体協議会
※NPO 法人 緑の手 美章園部会	東住吉区身体障害者団体協議会	住吉区老人クラブ連合会
※阿倍野の未来を築く会	※NPO 法人 緑の手 南田辺・鶴ヶ丘部会	住吉区身体障害者団体協議会
※美章園周辺のまちと健康を考える会 天王寺大和川線部会	※WAKU WAKU	住吉区アクションプラン推進委員会
	※全日本年金者組合東住吉支部	住吉区PTA協議会
	※道路公害に反対し東住吉区の環境を守り街づくりを考える連絡会	※阪和線「跡地」利用を考える住吉の会
	※長池・桃ヶ池有志会	
	※西田辺2丁目有志会	

※は公募により選出した団体